



WEEKLY REPORT

No. 1457

<本年度クラブ会長方針>

家族に感謝、職場に感謝

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 松本哲朗 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号丸越ビル6F
幹事 杉本忠夫 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

インスピレーションになろう

<2018-19年度R.I.テーマ>
R.I.会長 パリー・ラシン

第1701回例会

平和と紛争予防
紛争解決月間
平成31年2月18日(月)
西名古屋分区分区M
於 名古屋観光ホテル
出席計算数 55名
出席率 100%
前々回出席率 89・58%

例年プログラム

R-第2760地区西名古屋分区分区M
インターシティーミーティング
「未来を感じる」

16時00分

第一部 式典並びに講演会
国歌「君が代」及び
Rソング「奉仕の理想」斉唱

主催者挨拶
特別出席者紹介・代表挨拶
特別講演

大阪大学末善教授 石黒浩氏
謝辞

次期西名古屋分区分区ガバナー補佐
次期I.M.ホストクラブ会長挨拶

18時30分

第二部 懇親会

歓迎のごちよと乾杯
アトラクション

・愛知大学ブルースターズ
各クラブ会長より挨拶
御礼のごちよ

ロータリーソング
「手に手つないで」斉唱

20時00分 閉会

式典並びに講演会(第一部)

主催者挨拶

西名古屋分区分区ガバナー補佐

渡邊 一平さん



皆様 よつこそお越し下さいました。本日は村井ガバナーをはじめ、パストガバナーの方々にも大勢ご出席いただいております。誠にありがとうございます。

1年前、当時の宮崎薫ガバナー補佐、並びに名古屋東南RCが全力を挙げて素晴らしいI.M.を開催され、感激すると同時に次への責任の重さを痛感しました。みんなが集まって内容を検討した結果、全てのロータリアンが共通して興味を持つ「未来」をテーマにすることを決定しました。そして、村井ガバナーにはこれからのロータリーについてのお話をお願い致しました。村井ガバナーは職業奉仕に造詣が深く、国際奉仕について流暢に十分把握しておられます。私が入会した当時、ロータリークラブは職業人が集まって研鑽を深め、得たものを社会に還元する集まりでした。職業奉仕こそロータリー活動の根源だと教えられ

ましたが、現在ではその言葉は死語になろうとしています。村井ガバナーのお話が、そうした時代に大きなヒントを与えて下さると考えています。

また、特別講演はロボット研究の第一人者である石黒浩先生にお願い致しました。先生がロボット研究をスタートしたのは、自分とは、人間とは何かを知りたいからと語られています。ロボットが家族の一人になる時代が間近に迫っている今、人間とロボットの関わりをどのように考えるかという答えを差し示して下さると思います。第一部では愛知大学のビッグバンドと当ホテルのおいしい料理で懇親を深めていただきたいと思います。また、西名古屋分区分区の13クラブ代表に1分間スピーチをお願いしています。この機会にすべてのクラブを知っていただきたいと思いますので、どうぞ最後までお楽しみ下さい。

特別出席者(敬称略)

ガバナー 村井總一郎

東名古屋分区分区 長瀬輝代之

ガバナー補佐

西名古屋分区分区担当 高須 博久

地区副幹事

参加クラブ

13 RC・登録者数 741名

名古屋RC 55名

名古屋西RC 29名

名古屋南RC 4339名
名古屋みなとRC 438名
名古屋東南RC 85名
名古屋瑞穂RC 67名
名古屋大須RC 55名
名古屋栄RC 105名
名古屋南南RC 14名
名古屋名駅RC 14名
名古屋丸の内RC 4362名
中部名古屋みらいRC 4名
名古屋中RC 140名

特別出席者代表挨拶

ガバナー 村井總一郎さん



皆様こんにちは。本日はロータリーの歴史についてお話をし、そこからどのような未来が見えてくるかを考えたいと思います。ご承知の通り、ロータリークラブは1905年に4名の仲間と共に始まった社交クラブです。信頼出来る仲間が親睦を図り、仲間同士で正常な取引を増大していくという意図で誕生しました。その後ソカゴの街に広がり、奉仕活動の歩みを積み重ねていくことになりました。日本においては、1920年に東京RCが発足し、来年で100

年となります。当時の東京RCCは国際人が多く、経済界の人物が集まった社交クラブで、また奉仕活動には目が向いていませんでした。そのうち、1923年に関東大震災が起き、国際ロータリー、海外のクラブから合計9万ドルもの義捐金が届きました。日本のロータリーは改めてそのように驚愕し、このロータリーの精神を引き継いで広めなければならぬと真剣に考えて活動を展開していききました。

その後、東京RCCのロータリアンはアメリカに行き、ロータリーの奉仕とは何かを学び取るようになりました。ここで「最も良く奉仕するもの、最も多く報われる」というシエールの言葉が生まれます。この言葉は近江商人の三方良しにも通じ、経営者としての資質向上に大変役に立つものであり、ロータリーはこうした考えを共有出来る経済人の集まりとして広がっていききました。

しかしながら、国際ロータリー

は出来るだけ多くの人々に参加してもらい、目に見える奉仕をして寄付者である支援者を増やそうしてきました。多くの人と手を繋ぎ、多くの奉仕を行い、寄付を求めようという考えです。こうしたことが、最近の国際ロータリーの方針に顕著に表れるようになり、職業奉仕を中心とする活動理念と「非難が生じるようになりませんでした。また、多くの職業を持たないロータリアンが入会するようになり、「人格形成、素晴らしい仲間づくり」の場から、「良いことをしよう」と提唱する場になりました。さらに、補助金やPRの推進、戦略計画の推進などを例として挙げ、他の奉仕団体との違いを事業内容や規模によって表そうとしています。ロータリーに入会することが、理念や人格形成に繋がるものでしたが、今ではロータリーという団体の運営の仕方を広くPRする運動に変わってきています。

では、このように広がるロータリーと職業奉仕の理念はこれからどうなっていくのでしょうか。すばりの答えを言える程の見識は持っていませんが、明らかなのは困っている人に手を差し伸べ、相手の気持ちを理解して手助けするような思いやりの心の醸成と実践が重要であるということです。発展・発達という観点からすると、少し違つように見えるロータリーの方針も、奉仕の先にあるものは一緒

だと思っています。本日この場で、皆さんが未来像を見つけ、明日からのロータリー活動に活かしていただければ幸いです。

◆特別講演 「人間型ロボットによって 支援される未来の生活」

大阪大学栄誉教授 石黒 浩氏



プロフィール

1991年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了。工学博士その後京都大学情報学研究所助教、大阪大学工学研究科教授を経て、2009年より大阪大学基礎工学研究科教授、ATR石黒浩特別研究所所長、ATRエロー、2017年から大阪大学栄誉教授、専門は、ロボット学、アンドロイドサイエンス、センサネットワーク等。2011年大阪文化賞受賞。2015年文部科学大臣表彰受賞。

ロボットで未来はどのように変わるのでしょうか。千年、1万年、さらには10万年先に人間がどうなるかが分かれば、自分たちが今何をすべきかが分かると思います。そのため、まずはこれから10年の間に起こりそうなこと

をお話したいと思います。

まず色々な人間型のロボットが登場します。2011年に私は自分の代わりに講演するロボットをつくりました。私が講演する場合とアンドロイドが講演する場合を比べると、後者の方が喜ばれます。皆さんは私よりアンドロイドの方が興味あるのではないのでしょうか。このことは人間にとって大事と言われているアイデンティティが、私自身にはないという証になります。分身のようなロボットをつくってみると、人間はありもしないことに慣れていたり、大事だと思っていたことがつまらないことだったり、逆につまらないと思っていたことが非常に重要であったり、人間の本質が色々見えてきます。

ロボット社会はやがて来ると言います。50年で日本の人口が半減すると言われていますが、生活の質を保つとするとロボットを使うしかなかったら、安くて使いやすいロボットが出来れば使つことには目に見えています。その時に私たちは単に便利な生活を送るだけではなく、ロボットと一緒に社会の中で過ごすことでロボットと自分の価値を比較するようになり、時にはロボットの方が役に立っているのではないかと考えるようになります。単に便利になるのではなく、自分の存在意義を考えるようになるのがロボット社会と言えます。ロボットが普及すると仕事

がなくなりません。しかし、ロボットと共生することで、人間にとって仕事は何かと考えるようにならないのでしょうか。

いずれ来るこうした社会のために、私は20年前から色々なロボットをつくるようになりました。それらは全て産業用ではなく、街や家の中で人を支援するような人間らしいロボットです。人が一番関わりやすいのは人で、機械がその対象にはなりません。そのため、人間らしいものにするのが重要でした。複雑で人間らしいロボットをつくることは、人間を理解することにつながります。これまではセンサー、画像認識、AIなどの技術で声を聞きわけたり、画像を認識したりするコンピュータがありました。これらは全て部品ですが、これらは全て部品でしかありません。部品を組み合わせ、知能は何か、カラダはなぜ必要なのか、意識はどこにあるのかなどを研究することが今後の課題になっていきます。人工知能という言葉はよく聞くようになり、様々な所に活用され始めていますが、では知能とは何かを知っているのでしょうか。私にはまだ定義することは出来ませ



ん。人工知能を研究しているとい
うのは、実際はアルゴリズムを研
究しているに過ぎないというのが
大半です。

「同じした一方で、ロボットをこ
んごん賢くしていく必要がありま
す。英語を教えたり、レストラン
の店員の役割をしたりするロボッ
トなど、人間が持つ一つの機能を
実現するものは登場しています。
今後はコンシエルジュやコンパニ
オンなど、様々なことが出来るパ
ートナーになるようなロボットを
つくりたいと思います。徐々につ
くられてはいるのですが、まだ高
価であるため普及するまでにはい
っていません。

いま、話せば教えてくれる機器
が普及してきていますが、それほ
ど役に立つ働きはしていません
。言葉は曖昧で、意思疎通
出来るのは人間同士だけです。意
図や欲求がベースにないとわか
らぬことは出来ません。しかし、
逆にロボットが意図や欲求を持つ
と、言葉を通して意思疎通出来る
ようになります。例えば、エプロ
ンが使う人の状態を見ながら健康
管理ができるようになるば、もう
少し温かくなって」といっような曖
昧な言葉でも適切に作動するよう
になります。これが出てくるように
なれば爆発的に普及し、次の技術
革命になると思います。

「同じしたロボットのマーケット
は大きくなるので、経済産業省の予測

では2035年には産業ロボット
や自動運転のマーケットより、人
と関わるロボットのマーケットの
方が大きくなると思っています。日
本はロボット研究でも産業面での
活用でも世界一です。なぜこれほ
どロボットに強いのかと云うと、
私は島国仮説というものを定義し
ています。日本人は千年弱続く
単一民族国家に生きていますため、
人も動物もみんな家族のようなも
のだと考えます。また、隣国から
攻められることもなく、お金のた
めというより役割を果たすために
働く感覚が強いと思います。こう
した土台を持つ民族は、ものづく
りのクオリティが他と比べて格段
に高いという特徴があります。

これからの社会は人間がロボッ
トに命令する一方的な関係ではな
く、お互い会話しながら共存する
関係になると考えています。機械
が賢くなる人と人にサービスをした
いという意図や欲求を持ち、人間
もサービスをされたいという欲求を
持っているため、「ここにきかんと
した対話が生まれます。私は自分
自身のロボットと共に、桂米朝師
匠や夏目漱石のアンドロイドをつ
くりました。また、マンコロボッ
クスさんのアンドロイドをつくら
たのは、テレビを通して実験する
ことが出来たからです。その「こ
ノートと一緒に黒柳徹子さんのア
ンドロイドもつくり、マッコさん
とアンドロイド同士が会話をする

ということも実現しました。アン
ドロイドを使い、演劇を上演する
ことも可能です。仕事をコマ何
秒という単位で計るように精密な
演出をする平田オリザさんと一緒
に行った実験では、ロボットでも
人間の役者でも役割は変わらない
ということが分かりました。観客
もアンドロイドに心を感じたとい
う結果が出ています。

「ここまでお話ししたのはA-1が搭
載されていない単純なものです。
しかし、私たちは出来るだけ人間
に近いロボットをつくらうと研究
しています。例えば、質問と回答
のパターンをロボットに覚えさせ
て話をする、その中から言葉を
選択して会話をしているような気
になります。また、「ニコニコ生放
送でネットを介してロボットと人
が会話をする」という実験を行いま
した。実際は見ている人から送ら
れてくる膨大なメッセージの中か
ら、応えやすいものだけを選択し
てロボットが応えているのですが、
その様子はまさに会話をしている
ように見えます。「同じした研究の
結果、現在では初対面の方と10、
20分間会話をすることが可能にな
っています。また、複数の人と話
すことが出来るような研究も継続
して行っています。

100年後の話をすると、ロボ
ットが増えることで人間が行う仕
事は確実に減ると考えます。ロボ
ットや技術の進化によって起る

問題は、技術を使いこなせる人と
そうでない人との能力差が広がる
ことです。しかし、このことは必
ずしも悪ではなく、私は人の進化
は競争によって生まれたもので、
二極化は進化に繋がるのではない
かと考えます。

また、千年先にはどうなってい
るのでしょうか。人間が進化する
には、遺伝子と技術という二つの
方法があります。技術の進化は遺
伝子の進化より速いスピードで進
展しています。人間は猿とは違い、
道具や技術を使います。そして、
現在は自身の人間だけで生活する
ことはほぼ不可能です。能力を拮
張する新しい技術は、人間にとっ
て非常に魅力的で、それを手にし
て生活を豊かにすることが生きる
目的であり、経済の発展を支えて
います。そのため、人類の歴史に
おいて技術が衰退したことはほと
んどありません。

「同じした話で思い浮かぶのは、
コンピュータがどんどん賢くな
るシンギュラリティですが、これ
はもう起こっていると考えられま
す。もちろん千年も経てば、人間
の能力を遙かに超えるものが出来
ると思いますが、現在でも囲碁や
チェスのトップの人間に「コンピ
ューターは勝っています。そうした
状況において、人間が技術による
生命の限界を超えた進化を達成す
るには、ブレイン・アップローデ
ィングだと思っています。技術が進



◆謝辞

I.M.実行委員長 伊藤 秀樹さん

と、私たちの活動が技術で支えら
れていきます。人間の進化は、唯
一生ものであった脳が「コンピユ
ーター」に変わり、人間がロボットに
なることだと言えます。例えば、パ
ーリンピックの選手は義手や義足
を使っていますが、100%人間
です。自身の身体が人間であるこ
う定義には、既にならなくなっ
ています。人類は無機物から生ま
れ、無機物に戻ろうとしているこ
うなのが私の仮説です。だからこ
そ私はロボットの研究を続けてい
ます。自身の身体を捨てて無機物
の知的生命体になると、多様にな
って進化が可能になります。そう
した世界を想定し、生命化アン
ドロイドの研究も行っています。
今後、遠い未来を考えたととき、
ロボットは道具ではなく人間の存
在意義を問いかけるようなもの
になります。人間の未来の姿を考
えながら、私たちはロボットと関
わる必要があると思います。

◆次期力バナー補任挨拶
次期力バナー補任

伊藤 豪さん

次年度のRー会長であるマーク・タニエル・マローニーさんは「ロータリーは世界をつなぐ」というテーマを設定されました。これを受け、第2760地区の次年度力バナーはグローバルを考え、地域社会とつながり、ロータリーを成長させよう」と話されています。それに向けて私共は「R」を進めていきたいと考えています。2020年2月27日(木)、名古屋 Hilton で開催致しますので多数のご来場をお待ちしています。

◆次期I.M.ホストクララ
会長エレクト挨拶

名古屋瑞穂RC会長エレクト

関谷 俊征さん

既に実行委員会を立ち上げ、準備を進めています。1人でも多くの方々に参加いただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

◆閉会の挨拶

名古屋中RC会長

山田 順さん

本日は多数の皆様にご来場いただきありがとうございます。また、3名の特別出席者の方々、5名のバスターガバナーの皆様、ありがとうございました。

村井ガバナーは地区活動方針の



■懇親会(第一部)

◆乾杯

I.M.名古屋実行委員長

杉本 仁至さん

本日は多数の皆様にお集まりの

中で、ロータリーの奉仕の理念を学ぶ機会として区内交流を奨励しております。そして、活発に例会訪問や卓話者の交換が行われています。本日のI.M.は区内交流のための最も大切な機会であると考えています。そのことを胸に、名古屋中RCは会員が一丸となり心を込めて準備をして参りました。第一部の式典、及び特別講演ではロータリーを勉強していただくと共に、テーマである未来を感じていただけたのであればこの上ない喜びです。また、この後の懇親会では賑やかに他クラブの方々とは林を交わし、ロータリーを語り合っていたら幸いです。

本日のI.M.がご参加の皆様にとって実のあるひとときとなることをお祈りし、第一部の閉会の挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。

- ◆各クラブ会長の挨拶(敬称略)
- 名古屋RC 天野信 一朗会長
- 名古屋西RC 一柳 伸会長
- 名古屋南RC 吉川公章会長
- 名古屋みぎやRC 田島伸也会長
- 名古屋東南RC 白木良彦会長



愛知大学軽音学部 ブルースターズジャズオーケストラ

◆アトラクション

ただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。20年前の1999年、国旗法という法律が出来た際に、本日の会場正面に掲げている国旗をつくりました。この法律では縦横の比率や朱の円の位置も決められており、非常にバランスが取れたものであると思います。それでは、私たちロータリークラブ、そしてロータリアンが世のため、人のため、そして日本のために大いに貢献出来ることを祈念し——乾杯!



- 名古屋瑞穂RC 平野好道会長
- 名古屋大須RC 松本哲朗会長
- 名古屋栄RC 加藤龍雄会長
- 名古屋名南RC 朝比美和子会長
- 名古屋名駅RC 米坂みよ子会長
- 中部名古屋みぎやRC 矢野雄嗣会長
- 名古屋丸の内RC 宮崎和余会長
- 名古屋中RC 山田 順会長

◆御礼の言葉

名古屋中RC会長エレクト

佐藤賢明さん

本日は多くの方々にご参加いただき誠にありがとうございます。石黒浩先生の特別講演では、少し不安になる面もありましたが、こうしてこのことをブラスにしたといと考えると、改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

◆手に手



麻雀同好会第42回例会
平成31年2月14日(木) 於マーシャンサロン東天光

優勝 尾上 昇さん

麻雀同好会は入会金がありません。当日参加料7,000円です。ただいま新会員募集中。ご入会のほど、宜しくお願い致します!

3月7日(木) 例会の案内
SPEAK OUT DAY

3月14日(木) 例会の案内
卓話

「その不調、もしかしたら姿勢のせいかも?」
一般社団法人カナンウォーク
代表理事 伊藤 聖子さん
紹介者: 神谷さつきさん

公共イメーション向上委員会
前田 隆久・杉浦 令淑
川畑 博敬・竹林 正人
*本文は、原則 頂いた原稿を転載しています。